

10/17 12:25

非管理メモ

公開不可

情報共有

(2枚 非管理メモ)

NISA班 ← プレス対応

暫定版

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 10 月 17 日 (月) 11:00~11:15

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 15 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (10 月 17 日 6 時現在)
- ・ <参考> 原子炉建屋カパー排設備及びモニタリング設備概略構成図 (6 月 24 日プレス資料抜粋)

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 1 号機建屋カパーに設置する注水管は、使用済燃料プール専用の配管なのか。

A. その通り。原子炉への注水については給水系の注入ラインがあり、炉心スプレイ系については現在調査中である。

Q. 注水能力はどの程度か。

A. 使用済燃料プールの冷却に必要な能力を確保していると思うが、詳細は確認する。

Q. 注水管出口と使用済燃料プールとの距離はどの程度か。

A. 実際にはプールの上空に注水管の出口があるが、距離は確認する。

Q. フィルターの組み合わせ試験の結果については公表頂けるのか。

A. 現在試運転中であり、まだ数値はないものの 90% 程度の放射性物質の低減効果を見込んでいる。

Q. 試験結果はいつ公表頂けるのか。

A. 1 週間程度試運転を行う予定であり、その期間でサンプリングを実施するので公表数値を用意したいと思う。

Q. 本日、原子力安全・保安院に提出予定の施設運営計画の報告書については、何時頃提出できる見込みか。

A. 現在最終的な取り纏め中であり、本日中の提出予定であるが時刻については未定である。できるだけ早く提出し、皆さまにご説明させて頂きたい。

Q. 地下水処置施設の復旧状況は。

A. 地下水に関しては、建屋周辺にサブドレンポンプが設置されており、地下水の水位があがると自動的にポンプが稼働し、地下水を排出する仕組みとなっている。現在は電源が喪失していることなどから稼働していない。順次復旧を進めているが、全面的な復旧には至っていない。

Q. サブドレンポンプが復旧しても地下水の保管先の問題もあることからすぐ稼働することはないという認識でよいか。

A. その通り。汲み上げた地下水の処理方法については現時点で未定のため、復旧したとしてもすぐに稼働させることはない。

Q. 汲み上げた地下水を5, 6号側のタンクに移送することは考えていないのか。

A. 現時点では1, 4号側のタンクと5, 6号側のタンク間には水を移送するラインは敷設されておらず、移送するとなると、ラインを敷設するか、タンクローリーで移送することになるが、実施するかどうかは未定である。

Q. 施設運営計画の要点はどのようなものか。

A. 主に原子力安全・保安院の指示に基づき設備の使用や設備がどのような考え方で作られているかについて記載している。また、それらの設備が故障した際の処置について設置許可申請書に近い内容が記載されている。

Q. 施設運営計画は中期的に3年程度を想定しているとのことだが、設備が何年程度使用できるといったことや故障時のバックアップ方法についても記載されているのか。

A. 基本的には中期的安全確保の考え方について記載されており、対応期間としては3年程度ということで考えている。今回報告書を提出して終わりという訳ではなく、保安院から評価結果を頂き、報告書修正の指示を頂くこともあり得る。

以上